

手線秋葉原から御徒町へ向かうガード下に、職人達の町ができ、にぎわっているとテレビや新聞が報じているので、これからの久留里や中心街のまち作りに役に立てばと、イメージを重ねながら見に行ってみました。

JR秋葉原駅中央口を出て左へ真っすぐに行って蔵前橋通りにぶつかったあたりで見当をつけて5分位、蔵前橋通りの向こう側に白塗りのきれいな壁面が現われ、何処が窓なのか、入口なのか分かりにくい建物の中へ入りますと、ガード下がワンフロアになっており、大正、昭和初期の職人達の下町の風景が続いて居りました。それは、路地にオープンな店もあれば、大道具でも使ったかの様な店舗もある工夫された箱庭の様な町並が凡そ35軒、如何にも女性達を喜ばせそうなまちづくりでありました。入口の、日本百貨店は全国各地から集められた和洋小物と食べ物百貨店、思わずワー！ヘー！と珍しさ興味をそそる品揃えに嘆声を上げました。すぐ隣の店は、帆布で作ったと思われるバック、小物、ジャケット、帽子類の「日乃本帆布」と言う店でした。

私の推測も入りますが本店は、山形米沢の「牛や」と言いましたから米沢牛の皮を使った製造販売の技術を帆布と皮を組合せて、例えば、バックの袋の部分は帆布で作り把手は皮を使ってオーソドックな温かみと、素朴な丈夫さデザインに女性達の人気を集めて居りました。

向い隣りではガラス工芸の職人達の工房があり、古いピンなどを使って800度位の炉で熟して様々な造形美術を見せて楽しませてくれました。

小物では、ネックレス、ブローチ、イヤリング類、硝子特有のキラキラする魅力に私も思わずバレンタインデーのお返しを買い込んで居りました。イメカの帽子、ツーモア、ヒコラボのジュエリー、ノーブルの傘、アマンドのレザーのアクセサリー、ハコアの木製家具、高取焼鬼丸雪山等と気がついたら3時を過ぎて居りました。

久留里のまちにこの様な店が何軒か出来たらいいなあとと思いながら、地場産業や伝統職人として働く人の仕事や職場を守り、再び陽のあたる場所を作るのもまち作りの役目であり、地方の価値であると思いました。

帰り途に朝刊に「ピープルミーツウエア」が幕張に二号店を出して好況と書かれて居りましたので、千葉山王町の本店まで行ってきました。

本店は夕方5時のにぎわう時間であるはずが、人気もなくさびしいお店でした。流行の怖さ、恐ろしさを知らされた思いです。

新宿の裏手は、かつて親父たちでにぎわった飲み街がさびれて居りましたが、バブル時の店は広すぎるからと今度は、今までのワンフロアをいくつにも分けて居酒屋に変えて今はまた大盛況をとり戻して居ります。

アキオカもガード下のワンフロアを35分割してコストを下げ、それぞれの技や魅力を客に提供して共に助け合い支えあって、厳しい競争社会を生きて行く姿を私達もよき目標にしたいと願い今回のメッセージとなりました。

